

# あまの愛人

第46号

平成28年5月15日

南洲吟道会広報局編集・発行

公益社団法人 日本吟道学院公認 南洲吟道会 会誌

発行人 理事長

吉永 洲神

ここに載る記事は、転記等、またはインターネット上への投稿を、堅くご辞退申し上げます。亦、個人名も多く掲載されますので、取り扱いは充分に、ご注意下さいますようお願いを申し上げます。

ごあいさつ

南洲吟道会 副会長 吉永龍奏

熊本で震災に耐えながら日々過ごされている皆様方に、心よりお見舞いを申し上げます。私たちは変わらぬ日常を送ることの出来る事に感謝しつつ、平素より、会員の皆様方におかれましては、さまざまな形で南洲吟道会にお力添えを賜り、厚く御礼を申し上げます。

平成二十二年十二月第四十五号発行を終えて以降、この南洲吟道会の会誌『敬天愛人』の発行が、成されなかつた事を、先ずお詫び申し上げます。

久方ぶりの継続に際し、また、その後の継続につきましても、誰がつとめるのか？ 維持していく事は容易いことでは無い等の御意見もございました。しかしながら、父であります理事長・洲神の志していたこの南洲吟道会の在り方を、今後も目指して参りたいと感じ、愚娘としてまた若輩ながらこの会の副会長として、改めて感じた次第です。継続には半ば強引な所もございませが、特に、今までもご尽力頂いてまいりました広報局の局長・曾根龍富さん、萩野進龍さん、有志オプザーバーとして佐藤龍廣さん、稲葉誠龍さん、

猪浦雅祥さん、脇岡宏祥さん、手塚憲城さん、鈴木永龍さん方に、特にご賛同頂き、今後、私が広報局長として発行に努めて参りたく存じます。

しばらくぶりの継続にあたりその会議の中で、書式について、和の文化に携わっているのだから「縦書き」で、また、お心のある方には、綴じて

(ファイリング)頂きやすいよう、今日一般的になっている「A4用紙」を基本とし、記事の多い号には「A3用紙」に拡大しお届け致すことになりました。また、実は、一昨年・師走の理事会で、広報局の継続が審議され、昨年春頃から、継続を願う有志を集う形に発展し、水面下で記事の投稿をお呼びかけしておりました。その為、本日掲載の記事に關しまして、古びた記事のようにお感じになるかもしれません。どうかこの経緯をご理解いただきまして、懐かしんでお目通しく下さいますようお願いを申し上げます。

見てくださる方や作り手が、それぞれにご負担を感じることなく、楽しく明るい気持ちになるよう、また少しでも意味のある記事の掲載をしてゆかれるよう心がけて参ります。日頃感じていること、会の行事に際して、ご意見ご質問等、何でも構いません。是非、広報局までお寄せください。或いは記事の投稿を、お願いするかもしれません。その時には、お一言でも構いませんので、どうか快くお引き受けくださいますようお願いを申し上げます。

それでは本日、平成二十八年年度総会及びミニ温習会に際し、『敬天愛人』継続致します。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

## 秋季千鳥ヶ淵戦没者慰霊祭に参列して

佐藤龍廣理事 (詩吟三田教場代範・洲神教場・若草教場所属)

千鳥ヶ淵戦没者墓苑は、大東亜戦争で亡くなられた戦没者、三十六万二千五百余柱の遺骨が納められている「無名戦士の墓」でもあります。

去る平成二十七年十月十九日に国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑の秋季慰霊祭が、秋篠宮同妃両殿下のご臨席のもとに行われました。

その前日には、洲神先生が永年に渡るこの慰霊祭に奉誦されて来られた事に

対し、主催の団体から感謝状の授与がありました。

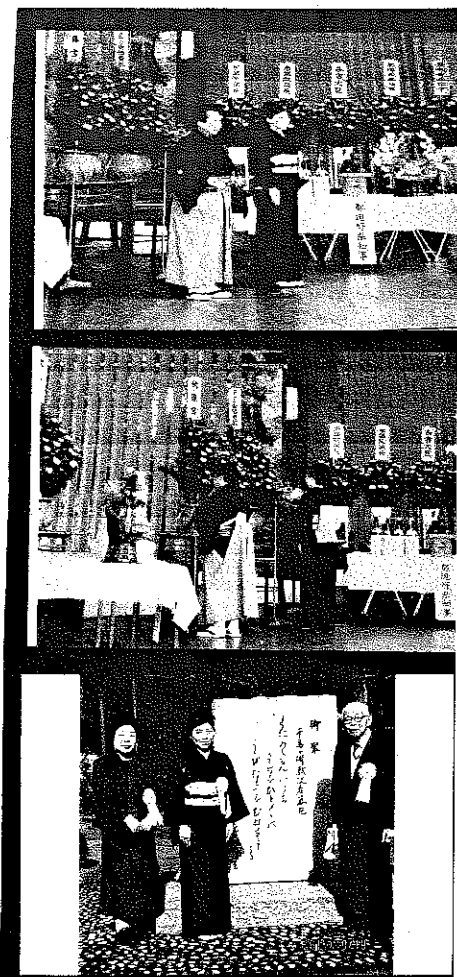
当日は、秋天に恵まれ居並ぶ参拝者の頭に、太陽が容赦なく照りつけるような日でした。今まで毎年、永い間奉誦されてこられた吉永洲神先生の後を引継いで、今年から吉永龍奏先生が、「昭和天皇御製の奉誦」を行いました。その澄みきった空の如く、吟声は、岡田純明先生の尺八の音の余韻と共に共鳴しあい、森に静かに響き渡っているようで、感動を覚えました。その後、今上天皇の御製の奉誦があり、音羽ゆりかご会の童謡唱歌が奉唱され、これまた、澄んだ子供達の懐かしい歌声が苑内の森に吸い込まれて行くようで、印象深く感じました。

それから、内閣総理大臣の追悼の辞があり、両殿下の拝礼が終わって・政官の代表に続き・外国大使・全国遺族代表等の献花があり、更に陸・海・空の各自衛隊と音楽隊の拝礼等が延々と続きました。

最後には参列者が列をなして焼香を行い、慰霊祭は終了しました。

式典終了後、洲神先生・龍暘先生・龍奏先生の三人が、昭和天皇御製の碑と一緒に記念撮影をされました。更に此の度は、立派な後継が出来て、すっかり安堵されている洲神先生のご様子がかがえしました。

今後は、洲神先生のご健康を大事にして頂き、体調に気をつけて、永く元気に過ごされんことをお祈りして、報告を終わります。



写真撮影：佐藤龍廣

## 平成二十八年年度春季昇段審査会、開催される

□日時 四月十日(日) 十三時開始→十六時二十分

□会場 中野区白鷺高齢者会館 2階会議室

□審査員 吉永洲神理事長 吉永龍暘会長

長友龍瑤公認審査員 霜鳥龍清公認審査員

菊田龍瑞公認審査員

□今回の昇段審査有資格者 八十七名うち

受験者(テープ審査を含む) 三十三名 受験率約四〇%

今回の特色

高段位の受験者が多数で、長文の詩が多くあり、これから上段位を目指す同席した会員にとり、大変参考になったと思う。

吉永龍暘会長の講評

これから三二温習会も予定されているが、詩吟は上達に焦ることなく、一つ々々積み上げて行くことが大切である。

本日受験者は全員合格、真におめでとうございました。

記事：有志オプザーバーとして

若草教場幹事長 鈴木永龍

### ◆今後の行事◆

五月二十九日 第六十四回 富山全国大会 富山県・高岡市文化センター

六月十二日 正会員吟道大会及び総会 千代田区・主婦会館

七月一〇日 日本吟道吟詠コンクール東京地区予選 小松川区民館

八月六・七日 夏季吟道大学講座 川口総合文化センター

九月十七日 秋季昇段審査会(及び温習会リハール) 白鷺高齢者会館

十月二十三日 秋季吟道温習会

なかの芸能小劇場

…次回、「敬天愛人」の発行は、秋ごろを予定しております…

富山全国大会にご参加くださる方々、真に有難うございます。応援致しております。頑張ってください！